

現代教育学部紀要の発刊に当たって

現代教育学部長 豊田 ひさき

現代教育学部は、平成20年4月、既存の工学部・経営情報学部・国際関係学部・人文学部・応用生物学部・生命健康科学部に加えて新たに第7番目の学部として開設いたしました。

平成20年12月12日、清水寺の森清範貫主は今年を表す漢字として、「変」を書きました。アメリカのサブプライムに端を発した金融恐慌、世界の自動車産業の牽引車であったビッグ3の倒産の危機は、直ちに、わが国にも波及し、モノづくりの中心地であった東海地方でも、景気の急速な悪化、突如な解雇、内定取り消しへの対応が喫緊の問題になっております。100年に一度あるかないかのこの稀有な地球規模の「変」のなかで、わが国でも格差の一層の拡大が顕著になってきております。これがまさに「現代」です。

教育者の養成を主目的にしたわが学部を「現代教育学部」と命名して、文部科学省に設置認可を申請した時には、まさか、今年ここまでの「変」が生じるとは、夢想だにしませんでした。乳幼児期から学齢期の子どもの健全な成長と発達を保障していくことを目指して、広い意味での次世代育成にかかわる専門家を養成する本学部は、「現代」という冠をつけた以上、子どもたちが成人した時、格差のない、真の民主的な社会をつくっていく主人公になっていく基礎能力をどの子にもきちんとつけていく教育者を養成することをミッションとしています。ここに本学部創設の意義があります。

本学部は、「次世代育成」、とくに、家庭・学校・地域社会における教育の重要性を基本とし、次代を担う乳幼児・児童の健全な育成を中心課題として、広く教育研究を行い、もって人格形成基盤を体系的に支援することができる優れた教育者・保育者を養成し、社会の期待と発展に寄与することを目的としています。

現代社会における緊急の課題は、「次世代」を健全に育成するという本来の意味での子育てであり、全人教育の確立です。が、社会経済の変化や人間関係の希薄化、地域コミュニティの崩壊などにより、地域社会や家庭における教育力が低下し、今日ほど教育という人間的かつ社会的な営みが機能不全に直面している時代はありません。

現代教育学部は、本学がこれまで大切にしてきた「時代の要請に適合した人材育成領域の創設」、「高度専門職業人の養成」、「社会・地域との連携強化」の視点に立って、現代の社会が求め地元春日井市をはじめ近隣地域から要望の強いこのような教育課題に真正面から真摯に取り組み、次世代の健全な人間形成の基盤づくりに自覚的に参画し、コラボレーションを発揮することができる教育の専門家を養成するために、設置・開設されました。

児童教育学科は、児童期的人格発達環境や教育・指導のあり方について、学際的に教育研究する学科であり、特別支援教育・子どもの問題行動・学習意欲や基礎学力の低下・友人関係の希薄化など、今日の多様な教育課題を積極的に解決する専門職業人を養成することを、目的としています。

幼児教育学科は、育児・保育・子育てや躾などの基本となる乳児や幼児の健全な発達を体系的に支援する教育のあり方について、学際的に教育研究し、発達初期の人格形成を個性に応じて多様に支援できる専門職業人を養成すること、を目的としています。

「研究力のある教員が創造性を養う」といわれております。学部所属教員の旺盛な研究力をさらに研鑽する場として、研究成果の一端を発表する場として、『現代教育学部紀要』を発刊することになりました。多くの皆様方のご指導とご支援をお願いいたします。